

人間様の値うちもさがったもんだ

労働者を馬鹿者扱い

三川鉱線込み場のパネル

三川鉱の線込み場のパネルが、労働者の間に怒りの波紋を呼び起している。「保安を守ろう」と呼びかけたのだが、それがなぜ問題となったのか……?

裸体昇坑禁止

休憩所より入車ホーム迄、裸体で昇坑している人がいます。保安規則第四八条に違反します。今後、裸体昇坑は絶対止めて下さる。

マンベルト塔乗態度について

最近ベルト上を、歩く、寝て行く、人を追越す、等、危険を恐れぬ馬鹿者がいるようですが、発見次第処罰します。人の笑いものにならないように。なお今後も続くようであれば、負傷防止のため、マンベルトの運行を停止します。

保安係長

よく見えてくれ

ダイヤ変更後の浴場

三川鉱

三川鉱の、こんどの入車ダイヤの変更は、働者の間から非難を浴びている。次はその一つ——三川指導部職場七分全新聞「あせ」(七月二十一日発行)の記事である。

入車ダイヤ変更は、運搬合理化の大きかりなもので、従来三十分だった運行タイムを二十四分に、入車のダイヤ変更にとともに、

とくに電車やバス通勤者は時間

三川指導部

手記

一組員

三川鉱の線込み場に、上記のような指示がしてある。パネルには、線込み場の中央にペンと描え付けてあり、前からも後ろからも見えるようにしてある。ここ——三川鉱坑底の上層六十五号部内行くだめには、水

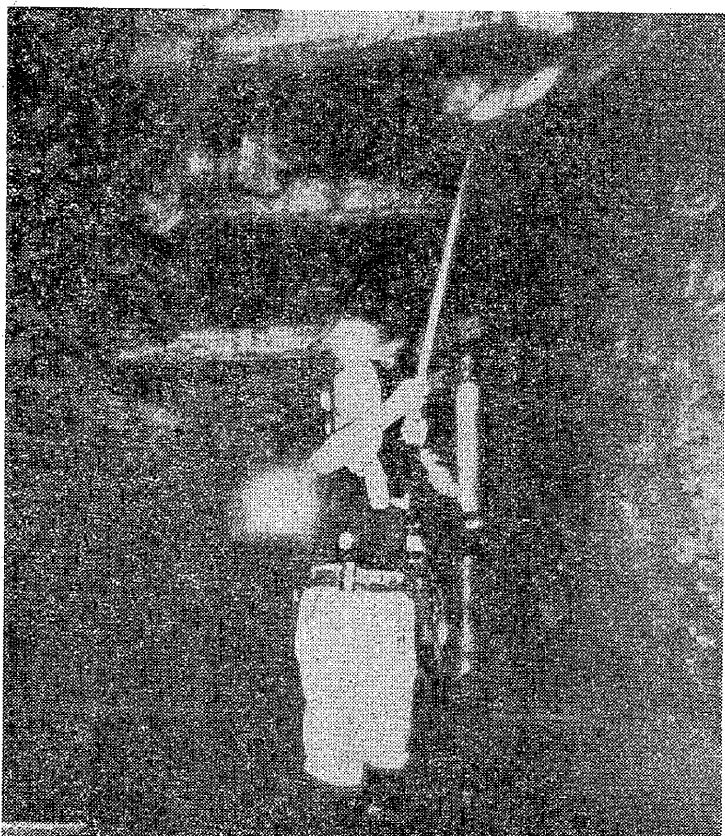
にさらされ、汗をかく間もなく帰る。

脱衣所もろく。管理者は、浴場も脱衣所がどのような状態にあるか、よく見えてくれ。

スカットならんか、脱衣場

脱衣場のクーラーを、もっと冷やせ。エネルギー節約かしらな

抗内の湿度の多い所で働いているんだ。入昇坑時の脱衣場ぐらいは、スカットさせてくれ。(四山五分全新聞「きずな」)



天井点検やガス測定が、坑内で働く人間の命につながっている。

抗議のおかげで楽に

保安軽視に強まる抵抗

四山の職場

七月十四日午前十時三十分頃、四山鉱坑底の上層十八号において一番労働者の江崎幸徳さん(58歳)三井天領病院で、さそく開腹手術を行うほどの大事故だった。その後同月十九日に行なわれて、たところ、硬(ボタ)が落ちてき

工が同じ四山鉱坑底の下段三片板で天井穿孔中、突然炭壁が崩れ落ちてきて、そのため左膝を挫創した。数針縫ったが、四山鉱では依然として事故が続いている。

今は、大きく見え

る母の姿です

山形 富田 育子

三池にまなに住み続けることが願いであり、ぶ婦人集会で、今まで自分の家に来てくれた全国の仲間が再度訪れた時ここに居なへる分活しければ、そんな仲間が減ってしまう。家族として迎えたい。たとえ植物人間であっても生き続けることが抗議である。



の交流があり、三池の人びとの心をつなぐ、自分の家を持つという気持ちがあるが、三池

かわら版

期手、また低額支給

「父をきつつか、ななせめてやるように」

就職した息子から母親にきた手紙

四山鉱では六月六日、七月(十九日現在)三人の重傷者が出入院加療中であるが、このような相次ぐ災害に対して、職場では不安定な状況に、会社に対する怒りが噴き出している。

負傷者は、その七割が採炭工や掘進工に集中し、直接夫の罹災率が非常に高くなっている。二十万トン減産(年間)体制下の資材節約や、人員不足による保安対策の立ち遅れが端的に現われているのが、最近の災害の特徴である。

本紙の前号に紹介されていたように、四山鉱三十五号部内では六月に、二度の自然発火事故が相次いで発生しているが、地下六百メートルの七百メートルという深部採掘にもなると、現場の作業環境が悪化してきている。三十四度〜三十五度という高温箇所が数

この項は、四山指導部・片山末吉・記。

多くみられる。このような保安対策の怠慢に対して、四山指導部としては職場分会ごと、鉱長室に抗議にいたり、職場での抵抗闘争を強めている。

「若い時はからだも強く、ひとには負けなかったが、最近では疲れが溜る日までも残るようになってきた。」

私の排気道の高温箇所でも働く三池労働者人たちの抗議のおかげで、クーラーが増設され、非常に仕事に楽になった。からだも弱ってきたから、つくづく労働者は困らんならだだ、とわかってきた。あと二年までわすれずだが、かげながら三池労働者ががんばって

三池労働者の組合員も、この期待にこたえるためにも、闘わなければならないと覚悟を固めている。

×

富田さんは「山形県上市市中山二八三三」の方で、右は猿渡バギエさん(荒尾市緑ヶ丘若葉町四二)に寄せられた手記です。